

革マル松崎-デッチ上げを口実とした「申し入れ」で 『クビ切り』と『幕張廃止』を要求

4・7暴力事件 デッチ上げ弾効

動労革マル松崎による、土屋粹の「暴力事件」を口実とした、東日本会社への「申し入れ書」の中身について、われわれは絶対に許さない。労働者の「クビ切り」だけではあきたらず職場をも「廃止せよ」と絶叫し、動労千葉と国労破壊に躍気となっている革マル松崎と土屋粹一派を断固として追放・一掃する。

労働運動史上 最悪の「申し入れ」

土屋粹による「4・7暴力事件」なるものが百%デタラメであり、土屋の「腰痛」が持病であることを本紙上で暴露・弾効してきた。

その上で、動労革マル松崎が、東日本会社社長・住田宛に提出した「東鉄労申第三号」の「申し入れ書」の内容たるや、労働運動史上最悪の中身であることを明らかにする。

「申し入れ書」の中身とは、
第一に、「暴力行為、業務妨害した者への厳罰」を要求している。
つまり、「クビを切れ」ということを叫んでいるのだ。この間、松崎は「動労千葉、国労を採用するな」と当局に嘆願してきたにもかかわらず、動労千葉、国

労が新会社に入ったことに憎悪し、「暴力」をデッチ上げてでも動労千葉の「クビ」を切ろうというのだ。

「職場廃止」を絶叫する松崎

第二に、「職場を管理できない三助役に対する最高の処分」を要求している。

これは「暴力」なるものが全くなく、当局すら「現認」できなかったことに対して、松崎が「クビになりたくなかったら見たといえ」と恫喝し、ウソの「証言」を強要しているのだ。

第三に、「動労千葉の温床となってい

る幕張電車区の廃止」を要求している。

これなどは、ファシスト松崎ならではの発想である。当初、松崎は土屋を佐倉から幕張に転勤させ、「千葉地本」の拡大を狙ったが、それが破産するや今度は、デッチ上げを行い、動労千葉最大の拠点である幕張支部を「職場ごと廃止するぞ」と恫喝してきたのだ。「千葉地本」が拡大しないことへの「腹いせ」とでも言うべき、ファシスト的の口口である。

第四に、「職場管理の強化」を要求している。

当局・動労革マル一体となり、職場を専制支配し、動労千葉の職場での闘いを圧殺しようというのだ。
現に、十三日以降、二四時間体制で職制三十名が職場にはりつき、役員・活動家を監視しているのだ。

権力・当局の介入を あらゆる手段で粉碎せよ

このような「申し入れ」をもって「労働者のクビ切り」「職場の廃止」「事実の歪曲」を狙う革マル松崎と土屋粹を絶対に許さない。追放・一掃するのみである。

また、権力・当局が、この「申し入れ」をもって動労千葉に介入しようとするならば、われわれはいかなる手段をもってしてもこれを粉碎するものである。

4・19中江出陣式へ